

たけのこ

2010
MAY 5 / 第12号



医療法人 久盛会

秋田緑ヶ丘病院

〒011-0911 秋田市飯島字堀川 84 番地 TEL (018) 845-2161 FAX (018) 846-6942
ホームページ <http://www.kyusei.or.jp/>



理念

友情を因り、「生きる喜び」と「希望」を育み、「安全・安心・信頼の医療」を実現します

指針

1. 医療の安全と質の向上に努め、患者さんに信頼される医療を提供します
2. 医療人の育成を図り、医の倫理の高揚に努めます
3. 患者さんの人権と個人の尊厳を守り、親切、丁寧な医療サービスに努めます
4. 社会の変化・医療の進歩に対応できるよう自ら研鑽に努めます
5. 医療を通して、地域社会の一員として貢献できるように努めます
6. 精神障害に対する偏見や誤解の解消に努めます



病院下の堀川公民館前から撮影 (2010. 4. 27)



はじめまして

統括顧問 坂本 哲也

みなさんこんにちは。
この4月1日から秋田緑ヶ丘病院の仲間に加えていただきました坂本です。よろしくお願ひします。

42年間脳神経外科の道を行ってまいりましたがこのたび、思うところあり、この病院で認知症の勉強をさせていただくことになりました。脳外科医として手術により頭部外傷による頭蓋内出血、クモ膜下出血や脳腫瘍などを救命してきたことも事実ですが、秋田県では脳卒中の治療で歯がゆい思いも積み重ねてきました。秋田県は脳出血が最も多いとされ、死の病とされましたが、最近では脳梗塞が60%以上を占めるようになり、内科的治療でいったんは回復しますが再発を繰り返します。そして次第にADLが悪化し行動や精神状況に変化が現れるようになります。また最近ほけてきたので診察してもらいたい、あるいは物忘れがひどくなってきたと訴え受診する患者さんに対して、認知症の診断をすることはできるのですがそのあとのことについては全く人任せでした。自分もそうですが物の名前や人様の名前が思い出せないことが時々あります。なに物忘れは順調な発育の証拠だから当然などとごまかしているのですが、ある時期から順調な発育と認知症とに分かれます。早期発見することであるいは病気の進行を遅らせることができますし、なかには治る認知症もあるのです。このように早期発見は大事です。そしてまた認知症を抱えている患者さんとその家族のためになにかしてあげたいのです。秋田県における認知症治療と介護に対する医療資源の整備はまだ不十分であると思われまふ。

今後、全国的に高齢者認知症が著しく増加すると予測されていますが、秋田県は急速に高齢者社会に移行し始めていますので早急に対策を立てる必要があります。地域で医療から福祉までのシームレスケアを実践していかなければ住民が暮らすことはできません。まずは認知症の早期発見と早期治療のセンターを目指して準備を進めたいと考えています。皆様のご協力をお願いします。

東京都町田市

高齢者複合施設

秋田高城 体験記

秋田高城の思い出



西1病棟看護主任
武石 律子

昨年10月1日〜12月10日頃迄、東京町田市にある高齢者複合施設秋田高城に2ヶ月余り出向させて頂きました。

町田市は東京のはずれに位置し神奈川県との境めにあり、静かな所でありながら交通の便がよく直通で小田急線、横浜線、江ノ電など観光スポットに行くのにとっても便利な所で自分もそれなりに楽しませて頂きました。

秋田高城は3階建てで1階フロアーは小規模多機能施設、2階3階はグループホームとなっていました。ドクター不在の施設なので不安と緊張感は常にありましたが、外部から定期的に訪問看護、協力病院のDr往診、歯科往診、リハ療法士など各職種に支えられ健康管理に努められていました。

此処で施設長と出逢えた事で多岐に渡り勉強させて頂く事が沢山あり、ひとつの教えとして利用者に届くだと思わせる時間を与えてはいけない、自分達の業務を優先させては「ダメ」の一言です。

呼吸停止で救急搬送される事態もありま

したが、スタッフもフロアーも関係なく協力体制が良くきちんと対応できました。結局は残念な結果に終わったのですがその家族からは、涙ながらに「生前から本当に良くして頂いて」と感謝され、これも信頼関係から出た言葉だと感じました。こんな経験も含めた2ヶ月間でしたが、本当に貴重な時間を頂いたと感謝しております。

理事長、本部長におかれましても、一緒に会食をさせて頂き、美味しい中華料理やラーメンなど御馳走になり、今でも思い出されます。

秋田高城のスタッフも利用者さんも大変暖かく迎え入れてくれ、初めての職場とは思えない位でした。「もうこのまま秋田に戻らないでここに居て」と暖かい言葉をもらいとても嬉しかったです。その気持ちに応える為にスタッフへ秋田の食文化を紹介しようと思いきりタンポの代りに「だまっご鍋」を御馳走してみました。比内鶏、セリ、キノコなどの食材を秋田から送ってもらい本場の味を楽しんでもらい大変喜んでもらいました。

最後に2ヶ月間という期間でしたが町田に行った事で、自分自身も勉強させて頂く事も沢山ありましたし、それを現場で生かせる様に努力して行きたいと思えます。自分を取り巻くスタッフの方々の御協力に感謝致しております。本当にありがとうございました。

したが、スタッフもフロアーも関係なく協力体制が良くきちんと対応できました。結局は残念な結果に終わったのですがその家族からは、涙ながらに「生前から本当に良くして頂いて」と感謝され、これも信頼関係から出た言葉だと感じました。こんな経験も含めた2ヶ月間でしたが、本当に貴重な時間を頂いたと感謝しております。



秋田高城を通して



西1病棟看護師
三上 拓也

今回、秋田高城に来て、秋田では体験できなかったことが多々あり、今後の業務だけでなく、私生活の事でも学ぶことができました。私自身秋田県以外で生活したことが無いため、町田市の良さや、秋田県の良さの再発見が出来ました。

業務として各フロアーの利用者さんの状態把握のため、毎日朝礼後に各フロアーの看護師同士で異常や変化があった人の申し送り各フロアーの利用者さんの状態を把握し、緊急時に看護師がどのフロアーの利用者さんでも対応できるように勤めることを行いました。実際に、各階の看護師がいなくてきに転倒した利用者さんや激しい誤嚥があった利用者さん、便秘になり排便が必要になった利用者さんなどで呼び出しがありました。病院で体験してきたことはその場で応用できましたが、初めて体験したことは看護師同士で話し合うことや、施設長と相談することで対応することができました。医師がいない状態で不安はありましたが、逆に緊張感と責任感を今まで以上に持つことができました。この経験を病院で活かして、患者さんの状態把握に努め、適切な看護ができるように頑張りたいと思います。

余談ですが、秋田高城でも家族と利用者さんの状態説明で対応することがありました。対応の仕方が難しく、言葉一つ話すことに苦労しました。私生活では、秋田では体験することができない食事ができました。銀座久兵衛では

一流の新鮮な食材を余すことなく食べさせていただき、また、随息居（四川中華料理）では牛肉と春雨の炒め物と杏仁豆腐が印象に残っています。また八福（ラーメン屋）のあさりラーメンのスープの味とあさりの味が印象に残っており、どれも思い出すだけでまた食べたいという欲求が湧き出てきます。

私事ではありますが、東京都に行くことで人が混み合っている場所にも慣れる事ができ、少し都会人に慣れたような気がします。物流が豊富で買い物に困ることがないこと、バスや電車は次々と走ってくるため乗り遅れることが無く便利な街だと思いました。

忙しい中、2ヶ月という期間を頂くことで、自身の経験を豊かにすることができました。また、スーツや服を買っていただいたこと、理事長を始め、本部長や三浦事務部長と普段話することができない方々と話しをすることができうれしく思います。ありがとうございました。



作業療法科から

カラオケ機器を新規導入しました!!

3月から作業療法プログラムで使用していたカラオケ機材を新しくしました。以前使用していたレーザーディスクは入っている曲が限られており古い曲が多く、新しい曲をリクエストすることが出来ませんでした。しかし、今回導入した機材は最新の曲も随時入れることが出来、曲数も大幅に増えました。また、音もとても綺麗で更に歌いやすくなり、患者さんに大変喜んでいただいています。



世界の蘭展に行ってきました!

4月19日に作業療法のバスレクで『あきた世界の蘭展』へ行きました。秋田県で初開催ということもあり、平日にも関わらずお客さんで大混雑でした。会場には世界中から集められた様々な種類の、色とりどりの蘭が展示されており患者さんたちは1つひとつの展示に足を止めじっくりと観賞していました。普段の作業療法プログラムで園芸や華道教室に参加されている患者さんたちは「今後の作品の参考にしたい」と特に熱心に観賞していました。蘭の甘い香りと美しい花に癒され、身も心もリフレッシュした一日となりました。



心療内科

五月病



心理士
菊地 敏行



5月6月頃、何となく疲れた感じから次第に意欲が衰え、気分が落ち込み、イライラ感や無気力感、頭痛、肩こり、睡眠障害などを引き起こす…。一般的に良く知られる「五月病」。学生に多く見られたことから青年期の無気力症候群として良く知られていますが、正式な病名ではありません。「いつもと何か変だなあ」「調子がでないなあ」「眠れない」などの症状を感じ、それがなかなか改善せず、むしろひどくなつて来たなら、一人で解決しようとせずに周囲の人に相談したり、専門病院にて話をしたりすることが、早い解決へとつながります。

薬局だより

薬剤師長 大沢 里美



春の季語に「春眠」という言葉があります。春の夜の心地よい眠りを表した言葉ですが、24時間型の生活習慣による生活リズムの乱れや、最近のストレスに満ちた社会を反映してか、不眠に悩まされる人が増えているようです。

不眠を治すためには、不眠の原因となる生活習慣を変えることが大切です。睡眠環境を整えるだけで不眠が改善することもありますし、また逆に、睡眠環境が不適切なままだと、不眠治療を行って薬をきちんと服用していても望ましい効果が現れず、睡眠への焦りや不安が高じて、不眠の慢性化や重症化につながる恐れもあります。

睡眠は、脳を深く眠らせて精神的な疲労を回復するための大切な時間です。また、良質な睡眠は身体の休息とともに免疫力も高め、風邪の予防に役立つこともわかっています。良い睡眠をとるために厚生労働省がまとめた、「睡眠障害対処12の指針」に関するパンフレットがありますので、興味のある方は、どうぞお気軽に、薬局に声をおかけ下さい。

ワレーくらむ

高速道路割引制度を利用して



秘書室主任
保坂 秀明

一般車輛
向けの割引
制度が平成
21年4月29
日から完全

実施され、運よくETCを装備していた愛車でまだ訪れたことのない地を旅することにしました。北がいいか、南がいいか悩んだ末、栃木県佐野市を旨ざすことにしました。特別な理由はなかったのですが、佐野ラーメンがおいしいとの噂を聞き一度食べてみたいという衝動から出発となりました。

午前10時半秋田北インターから高速道路へ乗り、一路佐野藤岡インターを目指します。途中その土地土地の観光銘産品のあるサービスイリアに立ち寄り、おいしい物を食べたり飲んだり忙しい。前もって調べていたラーメン店も気になるので、お腹の具合を調整したりして。そんなこんなしているうちに佐野藤岡へ到着。時刻はすでに午後7時。お店は閉店時間にもかかわらず長い列。泣く泣くその店を諦め近くにあったラーメン屋で佐野ラーメンを注文しました。しかしそのおいしいこと。竹踏みの麺をあつさりスープで絡めてあり想像以上のものでした。

あっそうそう高速道路を降りる時には、やはり千円。心の中でやったあとウホウホしました。この制度も政権交代でどのように変わるのか皆さん見守りましょう。

外来診療のご案内

精神科・心療内科・内科・麻酔科

◆初診の場合

〈受付時間〉 午前 8:45～11:30まで
 〈受付窓口〉 受付・総合案内
 〈診療時間〉 平日（土曜日は午前中のみ）
 9:00～12:00 / 14:00～17:00
 但し、救急の場合はその限りではありません。
 （午後には予約制による診察を行っています。）
 ※内科、麻酔科については平日午後・土曜日休診。



〈必要なもの〉 保険証
 ※受給証をお持ちの方は併せて受給者証を提示してください。

◆2回目以降受診（再診）の場合は

〈受付窓口〉 外来・再診受付へ
 〈必要なもの〉 診察券と予約券



◆専門外来について

「うつ・ストレス外来」「女性専門外来」「思春期外来」「物忘れ外来」「睡眠障害外来」「てんかん外来」「PTSD外来」「頭痛外来」こちらの外来診療については完全予約制となりますので受付までお電話下さい。

毎月1回は保険証の確認をさせていただきますのでご提示願います。

クレジットカードでの支払いが可能です

患者様へのサービス向上の1つとして、診療費等の支払いについては、JCB、AMERICAN EXPRESS、VISA 及び MasterCard の4ブランドのクレジットカードがご利用できます。クレジットカードが利用できることにより、支払方法の選択幅が広がるほか、現金の持ち合わせがなくても安心して受診できるようになります。

部署紹介

北1病棟紹介

副看護部長兼北1病棟師長
眞名子麻喜子

北1病棟は男女混合（60床）精神療養病棟です。入院期間が長期に経過し、症状は比較的安定した慢性期の患者さんが多い病棟です。平成21年度から病院の目標でもある「作業法の推進」を目指し病棟では積極的に毎日スタッフ全員が患者一人ひとりに声かけ強化することにより参加人数を増やすことができました。作業療法への誘導は受け持ちスタッフが根気強く関わり、チームで目標を共有することで、実績評価が認められ、平成21年5月に理事長表彰・10月には院長表彰を頂きました。賞金は、ハンドベルを購入し病院祭などで演奏を披露し患者さんからも大変喜ばれました。治療の一環である精神リハビリテーションを今後も促進しADLの維持・改善と患者さんのQOLの向上をめざし積極的に取り組んでいきます。また固定チームナーシングを展開し、個別性を重視した医療と看護を実践し、これからの「寄り添う看護・やさしく思いやりの看護」を目指してスタッフ一同より良い看護を提供して行きたいと思っております。



こんにちは。新人です！



作業療法科
 作業療法士
三浦 寛右

秋田緑ヶ丘病院で働き、約1ヶ月が経ちました。業務内容にも少しずつ慣れ、入社当初と比べリラックスして取り組めているかと思えます。精神科OTでは、手工芸や絵画など、私が普段生活しているなかではあまり馴染みのない作業を用いることもあります。今は私が先輩から指導を受けている状態ですが、これから先、細かい作業以外にも、私が患者さんに教えられるように頑張っていきたいと思えます。学生とは違い、社会人または医療人としての自覚を持っていかねばなりません。責任ある行動を取り、精神科OTについての理解を深めていけるよう、日々努力を重ねていきたいと思えます。これからよろしくお願いたします。



西2病棟 看護師
中村 祐也

4月1日に西2病棟配属になりました中村祐也です。こちらにお世話になる前は2年間循環器呼吸器の病棟で働いておりました。精神科勤務は初めてですが2年間の経験を生かすと共に新たな分野を勉強し、患者さんの力になれるよう頑張っていきたいと思っております。お目にかかる機会がありましたら、ご指導よろしくお願いたします。



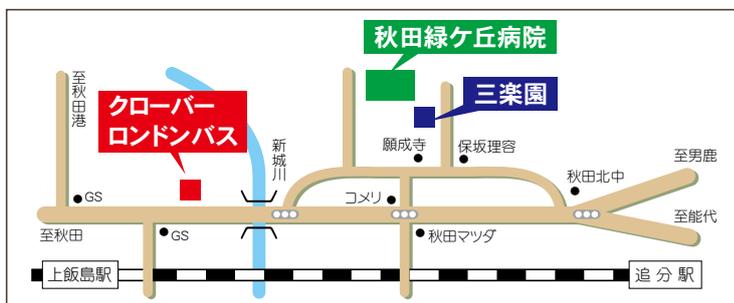
医事課
伊藤 真希

4月から医事課に配属となり、分からないことが沢山ありますが、優しい先輩方に色々と教えて頂き、少しずつですが業務に慣れてきました。これからどんどん色々なことを学び、早く仕事を覚えられるように頑張りますので、ご指導よろしくお願いたします。

秋田緑ヶ丘病院ホームページがリニューアルしました。

4月1日から秋田緑ヶ丘病院のホームページが新しくなりました。見やすく使いやすいホームページとなっております。ご意見ご要望がございましたら、是非ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス：<http://www.kyusei.or.jp>
 または「秋田緑ヶ丘病院」で検索して下さい。



編集後記

新年度初めての広報誌となりました。今年も、皆様に秋田緑ヶ丘病院をより知っていただけるように作成していきますので宜しくお願い致します。